



「藤棚の思い出」

学校長 小木曾敏樹

南小学校のグラウンドの南側には、藤棚があります。私が小学生の頃から、つまり半世紀以上前からこの藤棚はあるわけです。もう老木となり弱ってきているようです。それを支えるための鉄柱が家の柱のように縦横に組まれています。その鉄柱も劣化してきて、修繕か撤去が必要です。撤去すればグラウンドも少しだけ広くなり、手入れも不要になって楽にはなりますが、修繕する方向で考えています。南校卒業生にとって、この藤棚と西側に並ぶプラタナスは、南小学校の思い出であるとともに、南校の象徴とも言える存在だと思うからです。運動会の練習でも、この藤棚の下で休憩、給水し、子どもたちの安全を守ってくれている藤棚を、軽々に撤去はできません。

個人的には、もう一つ理由があります。それは私自身の大切な思い出だからです。

運動会、子どもたちは何度も何度もお父さんお母さんを確認します。さっき手を振って確認したばかりなのに、また探します。歌声交流会の時もそうです。後ろを何度も振り返り、親の姿を見つけると、笑顔になって前を向きます。思春期を迎えた高学年は、見ていないようなふりはしますが、必ず存在を確認しています。私もそうでした。

運動会の日、母はいつもこの藤棚の一番西側にいました。前に出て見ることもなく、カメラを構えることもなく、声援を送ることもなく、ただ静かにそこに立っていました。開会式には姿がありません。閉会式にも姿はありません。競技に出る場面にだけこの藤棚の西端に立っていました。私はいつも、この藤棚の端っこを見ていました。

お弁当はもちろんこの藤棚の下。友達のお弁当はおしゃれに飾ったサンドイッチだったり、一口サイズにラッピングされたおにぎりだったりしましたが、母の弁当は、全部海苔で包まれた真っ黒な大きなおにぎりがお重の一段目。卵焼き以外は茶色いおかずが二段目のお重に詰まっていたように思います。そして、三段目には、梨とぶどう。私は友達と遊びたくて、ご飯を食べると梨だけを手に持って藤棚の下を出ていました。いつ来て、いつ帰ってしまったか分からない、そんな母の姿を、私は藤棚の端っこを見ては確認していました。父の姿も探してはみましたが、一度も見つけたことはありませんでした。

12日(木)には、680の可愛い瞳が、お父さん、お母さん、ご家族の姿を探します。きっと、何度も何度も振り返っては探すことでしょう。

愛されている、求められているのです。愛し、求め返してください。写真や動画には写らない、心の記録にしか写らないものを、小さな心にしっかりと残るように。写真や動画よりも、価値のあるものになるはずです。



「伝えたい思い」って何？

1日に2回3回と、子どもたちの授業の様子を見て回っているのですが、先日、6年生の教室では、12月に開催する「歌声交流会」に歌う合唱曲を決めるという学級活動をしていました。運動会と並行してもう「歌声交流会」？と思ったのですが、よく考えればあと2ヶ月、早くはありません。毎日歌は歌ってきましたが、合唱曲となるとかなりハードルは高くなります。

6年生らしく、しっかりと「聴かせる曲」が選曲されていて、4曲の候補から1曲を選ぶというものでした。4曲とも素敵な曲でした。6年生はどんな曲を選ぶのだろうと興味があり、しばらくの間、2つのクラスを交互に行ったり来たりして見ていました。

曲を聴き終わると、「私はこの曲がいいと思いました。理由は・・・」といった形で意見交流が始まりました。意見は大きく3種類に分かれていたと思います。どの曲がいいかではなく、発言の視点です。

一つ目は、この曲の「繰り返しが・・・」「ハモるところが・・・」「サビが・・・」「歌詞が・・・」といった曲の特徴や良さからの発言。

二つ目は、「歌いやすいからみんなで・・・」「ここをみんなできれいにハモれたら・・・」「最後だからみんなで気持ちを込めて・・・」のような、学年の仲間を考えた視点からの発言。

そして、三つ目は、「伝えたいから・・・」と、聴く側、相手を思い描いての発言。相手とは、間違いなくお父さん、お母さんです。

結果は予想どおりでした。理由はそれぞれ違うのかもしれませんが、「伝えたい」という思いに共感した子は多かったように感じました。投票後に、「迷った人？」と先生が聞くと、数人が手を挙げ、「迷わなかった人？」と聞くと、大勢の子が手を挙げていました。心の中ではもう既に決めていたのでしょう。

6年生の子たちが胸に抱いた「伝えたい思い」とは、何なのでしょう？

「生んでくれてありがとう」？

「育ててくれてありがとう」？

「これからも、よろしくね」？

言葉にすると、どれも軽々しく感じられてしまいます。だから、こんなことではないのだろうと思います。子どもたちに聞いてみても、きつと言葉にならなくて、「育ててくれてありがとう」などと、こんなことを言うのでしょうか。でも、何か違うとを感じるはずだと思います。

子どもたちが抱いている、「伝えたい思い」・・・それは、言葉にならない思いや感謝だからです。

生んでくれてとか、育ててくれてとか、そういう条件を付けることでちっぽけになってしまう、「無条件の愛情」なのだと思うのです。無理に言葉にしようとするならば、「いてくれて、ありがとう」なのか、「出会えてありがとう」なのか・・・。

低学年、中学年の子たちが、何度も何度も振り返り親の姿を探すのも、基本的には同じだと思います。見てほしい、見ていてほしいという気持ちは、ほめてほしいといった承認欲求だけではなく、「無条件の愛情」なのだと思うのです。「無条件の愛情」を受け止めてあげてください。そして、「無条件の愛情」を返してあげてください。そんな10月12日にしたい。

